

看護職員の負担軽減計画(令和4年度)

現状・問題点	対応方針	具体的な計画	達成状況				
			令和4年4月	令和4年8月	令和5年3月		
<p>時間外がある 令和元年度 4361h (看護部合計27名) 令和2年度 2935h (看護部合計32名) 令和3年度 2438h (看護部合計35名) (令和3年度内退職2名・育児休業中2名)</p>	<p>・残務量の事前申告の意識化を図り時間外が発生しないような業務量の調整並びに応援体制の構築 ・業務内容の再検討・残務内容の分析 ・適正な人事配置</p>	<p>・業務内容の見直しと残務の事前申請の徹底・残務内容、残務時間の客観的評価を定期的を実施 ・看護支援システムの一部導入・人員の継続的確保 ・外来・病棟クラークの業務分担の見直しと推進 ・業務の状況に応じ他部署からの応援看護師の継続</p>	<input checked="" type="checkbox"/>	計画策定	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<p>療養病棟において、入院患者のベット32台中手動ベットが15台であり、入院患者90%以上が全介助を要するため、ケア時の負担が大きい</p>	<p>手動ベットを順次電動ベットに入れ替える</p>	<p>・院内の電動ベットの使用状況を把握 ・計画的に入れ替えできるよう、予算要望計画を立案し要望する</p>	<input checked="" type="checkbox"/>	計画策定	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
			<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>